

●2008年
2月10日(日)
AM / (PM)

分科会の名称
教えない環境教育 ここにあります

●場所 第4研修室
●参加者 20人

●実施者
森川千鶴さん、竹内成光さん
吉野了嗣さん

教えない環境教育 ここに 있습니다

Q. 教えない環境教育ってなに? (母教授のせい)
 効果の測定法は? (タイクに鬼かわれて)
 自己紹介を兼ねたこの分科会を? (発見)
 選んだわけは? (出会ったことはい講師の方)
 環境教育とは? (今自分がやりたい)
 理由? (テーマの魅力)
 知らない手法を知りたい (答えがほしい)
 報道されない現場の様子 (教えるではなく気づかせる)

2. ゲストの方々の活動紹介

全国子どもワークショップフォーラム
 取り組み 森川千鶴さん
 全国教育系ワークショップフォーラム
 →全国子どもワークショップフォーラム (2006年)
 全国フォーラム@鳥根
 *2007:ふりがえりフォーラム
 *2008:はちおうじ 里山留学
 *あたりまえのように森に入る
 *森に入る by 竹内さん
 *日常の中であたりまえのように森に入る
 *ことか! コンセプト
 *26年間、ノンプログラムのもんを
 *現在進行形(子33)
 *キャンプではこんなことしてはすの実際と思
 *みんなの輪になって...

3. ゲスト同士のトークセッション

なぜ環境教育が必要なのか
 ・今は地球が際限の見える時代
 ・人のまわりにあるこの環境

教えるべき環境教育とは?
 ・環境教育は「生きていくこと」そのものである。

子どもたちの「自由」をどう考えるか
 ・自由を支援していくことが必要

手づくり・手仕事の意義とは?
 ・からくりの見える生活 (その生活の価値の高さ)
 ・小さなや原体験々をしていく (重ねていく) こと

子どもの自立をどう考えるか
 ・現代の生活は、プロセスのわからないもので溢れている。今、置かれている環境は正に「ブラックボックス」
 ・子どもの心に置き火をつくる。

4. ゲスト参加者フリートーク

・身近なきっかけを与えるのが環境教育
 ・「こうでなければ」とらわれるのは危険
 ・子どもたちが学びたい → 提供する。
 ・「からくりのわかる生活」で変わる子もいる
 ・思いやりまで「やれる場の提供」
 ・隙間がどんどんなくなっている。
 ・子どもを「教える対象」としてしか扱っていない?
 ・子どもから学ぶ、という視点。
 ・問題解決型の教育でありたい
 ・つなかりを感じるために必要なのが環境教育
 ・環境教育という言葉すら要らないのでは?
 ・持続可能な社会って?
 ・体験活動が日常化すれば...

レポート: ちほりん (岡田千穂)